

Citation: Foxlee R, Johansson AC, Wejfalk J, Dooley L, Del Mar CB. Topical analgesia for acute otitis media. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2006, Issue 3. Art. No.: CD005657. DOI: 10.1002/14651858.CD005657.pub2.

CRG名: Cochrane Acute Respiratory Infections Group

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 10 February 2011

Clib issue No.; N/U: 2011 Issue 8; Update

背景: 急性中耳炎(AOM)は自然寛解する疾患であり、最も苦痛な症状は疼痛である。現在、抗菌薬には、過去に考えられていたほどの利益はないことがわかっている。局所疼痛緩和は、AOM患者にとって満足度の高い介入となる可能性があり、臨床医にとっては処方する抗菌薬を減らせる可能性がある。

目的: 成人および小児AOM患者に対する局所鎮痛の有効性を評価する。

検索戦略: 2度目の更新では、Cochrane Central Register of Controlled Trials(CENTRAL)(コクラン・ライブラリ 2011年第1号)、Ovid MEDLINE(2008年~2011年2月第1週)、Ovid MEDLINE(2011年2月10日時点のIn-Process & Other Non-Indexed Citations)、Ovid EMBASE(2008年~2011年第5週)、EBSCO CINAHL(2008年~2011年2月4日)、Ovid AMED(2008年~2011年4月)を検索した。

選択基準: 非穿孔性AOMのためにプライマリ・ケアを受診した成人または小児を対象に、プラセボと鎮痛効果作用のある点耳薬(抗菌薬を除く)、または鎮痛効果のある点耳薬(抗菌薬を除く)と鎮痛作用のある他の点耳薬を比較した、二重盲検ランダム化比較試験(RCT)または準RCT。

データ収集と分析: 3名のレビューアが別々に研究のスクリーニングを行い、試験の質を評価し、データを抽出した。選択した試験の著者からその後追加された情報を得ようとしたが、得られなかった。

主な結果: 3~18歳の小児391例を含む5件の試験が、本レビューの基準を満たしていた。2件の研究(小児117例)は、診断後直ちに投与した麻酔用の点耳薬とプラセボを比較したものであった。すべての小児に対し、何らかの経口鎮痛薬が投与されていた。5件の研究全てにおいて、ほとんどの患者の耳の疼痛が速やかに軽減したことは明らかであった。しかし、AOM診断当日に疼痛が50%軽減した患者の割合は、滴下10分後[リスク比(RR)2.13、95%信頼区間(CI)1.19~3.80]および30分後(RR 1.43、95% CI 1.12~1.81)には麻酔用の点耳薬の方が統計学的に有意に高かったが、20分後の時点では有意差は見られなかった(RR 1.24、95% CI 0.88~1.74)。3件の試験(小児274例)は、麻酔用点耳薬と自然療法による薬草点耳薬を比較したものであった。自然療法薬の方が、滴下15分後、30分後、ならびに診断後1~3日において効果は高かったが、統計的有意差には至らなかった。副作用が検討された試験は1件のみであったが、副作用は全く認められなかった。全体として本レビューの所見は、バイアスリスクの低い試験またはバイアスリスクが明らかでない試験のエビデンスに基づいている。

レビューアの結論: 5件のRCTのうち、主たる有効性に特に関連のある疑問を扱った試験は2件のみであり、これら5件のRCTからは、AOMを有する年長小児に点耳薬を投与すると、30分後に効果が認められるという限定的なエビデンスが得られた。点耳薬の効果の程度は明確ではなく、今後、より質の高い研究が必要である。

(監訳 尹 忠秀)

翻訳公開日: 2011年12月15日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がございましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年12回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。